

原稿の依頼があつてそれで（しかし書きたいことを書いたものを集めて本にしてくれるというお話を青土社からいただき、ならこれも、収録してもらいたい文章を私の方で加えそれらを集めてできたわりもある。）

もう一つ補足。「弱くある自由」という本は、古色蒼然としている。一九六〇年代後半、一九七〇年前後が私の出発点になつていて、その時私は小学生だったから、すこし遅れて知ることになつたのだが。その時期の人たちは私に大きなものを与えてくれたのだが、しかし途中で止まつてしまつたり、

それがからおもしろくなる
立岩真也

立岩真也は、「天下国家」が、いま論じられる、そういう時代だ、と言うことにしよう。私自身は今、論文指導やゼミといった厄介ごとから離れられているのだが、雑談の中で同業の教員たちが、大学生は極私的なことしかテーマにしない、大学院生はいつたいどういうつもりで大学院にいるのだろうと言う。ただ学生も自らの前にあるものから学び、それで行き詰まっているのなら、結局、教員などをやっている私たちがなにを示して来れたのかということでもある。

こうして一つに、学問あるいは「知」がここ何十年か置かれてきた状況がどんなものだったかという問いに行く。このことについては少しだけふれたことがある——『私的所有論』（勁草書房、一九九七年）第七章、「正しい制度とはどのような制度か」（大澤貞幸編『社会学の知識』、新書館、二〇〇〇年）。『近代（社会）を問う（問い合わせ）』という多分に大言壯語的な問い合わせはあった。私はそれを馬鹿にしてはならないと思う。いろいろな大切な人は何を言つているか、一番なんだかわからない部分かもしれない。とある大学院でこの章についての報告を大学院生の方がしてくださいたのだが、なかなか戦苦闘だった。それは仕方のないこと、私の書き方が不親切だったようにも思う。

いるが、基本的には、これからどんなことが、どんなふうに考えられたらよいと思うのかを書いた文章であり、何を私がしようと思うのかを書いた文章である。

そのことで もう一つ。つまり私の
立岩真也は、「天下国家」が、いま論じられる、そういう時代だ、と言うことにしよう。私自身は今、論文指導やゼミといった厄介ごとから離れられているのだが、雑談の中で同業の教員たちが、大学生は極私的なことしかテーマにしない、大学院生はいつたいどういうつもりで大学院にいるのだろうと言う。ただ学生も自らの前にあるものから学び、それで行き詰まっているのなら、結局、教員などをやっている私たちがなにを示して来れたのかということでもある。

こうして一つに、学問あるいは「知」がここ何十年か置かれてきた状況がどんなものだったかという問い合わせに行く。このことについては少しだけふれたことがある——『私的所有論』（勁草書房、一九九七年）第七章、「正しい制度とはどのような制度か」（大澤貞幸編『社会学の知識』、新書館、二〇〇〇年）。『近代（社会）を問う（問い合わせ）』という多分に大言壯語的な問い合わせはあった。私はそれを馬鹿にしてはならないと思う。いろいろな大切な人が何を言つているか、一番なんだかわからない部分かもしれない。とある大学院でこの章についての報告を大学院生の方がしてくださいたのだが、なかなか戦苦闘だった。それは仕方のないこと、私の書き方が不親切だったようにも思う。

いるが、基本的には、これからどんなことが、どんなふうに考えられたらよいと思うのかを書いた文章であり、何を私がしようと思うのかを書いた文章である。

脳科学に待望の
パラダイム登場!!

脳の方程式
いち・たす・いち

中田 力

21世紀の科学・複雑系から脳の謎解きへ。複雑系から見た「脳の見方」入門であるとともに、究極の謎——脳が意識や心、創造性をいかにつくっているかが、ここに解き明かされる◆1800円

紀伊國屋書店

出版部：東京都渋谷区東3-13-11
営業03(5469)5918 表示価は税別
http://www.kinokuniya.co.jp

オムレット
一心のカガクを探検する—

心の科学研究会G.N.C
ひるます著
A5判・150頁・定価1400円+税

心とは何か？心はどこにあるのか？自分はどこにいるのか？人が生きる意味とは何か？など、一般の人々がふと感じる心についての疑問を、最新の哲学・認知科学・精神医学などの研究成果をふまえ、ストーリィ性のあるマンガによつてわかりやすく解説。初心者から専門家まで、幅広く読んでいただける快著!! 斎藤環氏、西垣通氏ら推奨！

発行：広英社
〒170-0013 豊島区東池袋1-31-10-406
TEL:03-3986-4680 FAX:03-3986-4387
http://203.174.111/koheisha/
発売元：丸善出版事業部

・解放出版社・

住井すゑの世界
その生涯と文学

住井すゑの文学に生きた編著者がその全体像に迫る。
前川む一編 定価1,600円(税抜)

部落の歴史像
東日本から起源と社会的性格を探る
部落史研究の様々な疑問を確実な史料から読み解く。
藤沢靖介著 定価2,600円(税抜)

民衆を彫る
沖縄・100メートルリリーフに挑む
沖縄の近現代史を刻んだ巨
大リリーフに未来を託す。
金城実著 定価1,800円(税抜)

大阪懐古

半世紀昔の
庶民の町
渡辺三枝子著
1952年～54年の井
池・ジャンジャン横丁・法善寺横丁・道頓
堀界隈等、活気にあふれる大阪の町をダ
ブルトーンで活写。
2000円+税

馬たちの王国

高橋一郎写真集
来年の干支にちなむ
サラブレッド写真集。
1500円+税

奈良大和の峠物語

中田紀子 大和の74の峠の歴史と自然
を訪ねる。コース地図・写真を多数収録
した峠ウォーキングガイド。
1800円+税

ラザク博士の
ひらがな英会話

ネイティブな発音をひらがなで表記した異
色の英会話教本。
1600円+税

仏教書と
大阪の本
四天王寺書林
*小社直営。TEL06-6779-9531

東方出版 | <税抜>
〒543-0052 大阪市天王寺区大道1-8-15
TEL06-6779-9571 FAX06-6779-9573
京都市左京区吉田二本松町2
075-751-1211 FAX:075-751-2665
http://www.nakanishiya.co.jp/

思想・文化情況の〈現在形〉を射抜く
批判的視座を求めて

La Vue ラ・ビュー
No.8(2001/12/01号)

発行人：山本繁樹
発行所：るな工房／黒猫房／窓月書房
大阪市東淀川区菅原7-5-23-702 〒533-0022
TEL/FAX 06-6320-6426
http://member.nifty.ne.jp/chatnoircafe/index.html
E-mail : YIJO0302@nifty.ne.jp

目次

《2周年記念号》

- ◆これからおもしろくなる 立岩真也
- ◆「将来の公正正しさを保つ」という「超」能力の要求 神坂直樹
- ◆竹田エロス論と〈他者=外部〉 神名龍子
- ◆六条御息所の魂 ゆふまとひ あかね
- ◆正義って何なんだ〜! ひるます
- ◆私たちは戦争に反対する 共同アピール
- ◆魂の経済学序説 中塚則男
- ◆編集後記

No.9は2002/03/01発行予定です。

■無断転載を禁じます■

いなくなつてしまつたり、なんだかよくわからない。酒ばかり飲んでないで（いや酒を飲むのはよいのだが、酒飲むときにくだ巻くだけじゃなくて）もうちよつときちんとあの話を続けてくださいよ、考えてくださいよ、と思うのだが、なかなか。では自分で考えてみよう、見るしかない。そんなところでものを考えているのだと思う。私は一九六〇年の生まれなのだが、それは、例えば団塊の人たちに無責任に文句を言おうという距離があるとともに、しかしこで考えられたことをまるで知らないわけではない、そういう場所にいるということでもある。それはひどく中途半端なことでもある。だが、それもわくないと思つてゐるところが私はある。前置きが長くなつてしまつた。では以下、（ほほ）再録です。

ナカニシヤ出版

柳内隆 著
フーコーに対する様々な批判を手がかりに、全く古びることのない思想の新たな地層を掘り起します。
E・L・ハーブ著
人と仕事の橋渡し
と具体的な技法を説いて初めてのテキスト。
2200円+税

フリーの思想
キヤリアカウンセリング入門

2600円+税

に、たとえ有能な人材が枯れる一方だとしても、国民は不信に陥りながらなお裁判所を「信頼」せざるをえないものである。ADR（裁判外紛争処理機関）の拡充も提唱されはいるものの、あくまで例外的な位置づけのなかで、司法スタッフには、円滑かつ柔軟な訴訟マネージメント能力がますます必要とされてきている。十年前にはまだ見向きもされなかつた司法制度改革論議に今日、本格的に火をつけたのは、実は市場の力なのである。そもそも紛争当事者双方が納得いく場にその紛争解決を委ねることができるというの「能力」的人事を行う「外見上、公正らしい」国営裁判所と、「能力」的人事優先の民営裁判所とが競合関係に立つような社会的環境をつくらなければ、消費者もサービスの比較ができず、その結果、国営裁判所もなかなか「能力」主義的な適応行動をとろうとはしないのかも知れない。

とともにかくにも私は、裁判官の採用人事から、「能力」以外の「思想・信条や過去の言動」に基づく「不合理な差別」を除去し、有可能で多様な人材を裁判官に登用することが「司法に対する国民の信頼」を維持するうえで一番の急務だと考へている。従つて、そのような「自由主義」的なルールを明確にしないまま、ただ司法を「民主化」すればよいかのようない議論には、どうしても懐疑的にならざるをえないものである。

■「将来、公正らしさを保つ」ことは「能力」か
一審では採用基準について一切、口を割らなかつた被控訴人（國）も、控訴審になつて、「任官後、公正らしさを保つ能力・意思等を欠く者は裁判官としての適性がないことになる」という説明をしはじめた。「公正らしさ」の保持も「能力」の一つであるかのように言ひ回しながら、それが詭弁であることは明白だ。繰り返しになるが、任官後ににおいて公正らしさを現に保つていてるか否かはその時点での「現在の能力」として一応、測定可能だとしても、まだ任官していない現時点において「将来の能力」を測定することなど人間業を超えるからである。

能力主義に基づく選考こそ唯一合理的だと考へる私は、一審以来、成績報告書などの文書の提出命令を出すように裁判所に申し立ててきた。ところが大阪地裁は、それに抵抗を示す国（最高裁）側の意向に追従し、文書提示

に、たとえ有能な人材が枯れる一方だとしても、国民は不信に陥りながらなお裁判所を「信頼」せざるをえないものである。ADR（裁判外紛争処理機関）の拡充も提唱されはいるものの、あくまで例外的な位置づけのなかで、司法スタッフには、円滑かつ柔軟な訴訟マネージメント能力がますます必要とされてきている。十年前にはまだ見向きもされなかつた司法制度改革論議に今日、本格的に火をつけたのは、実は市場の力なのである。そもそも紛争当事者双方が納得いく場にその紛争解決を委ねることができるというの「能力」的人事を行う「外見上、公正らしい」

出の必要性を認めなかつた。控訴審になつても国（最高裁）側は、将来に向けては任官拒否理由などを開示する方向を示しながら、過去にさかのぼつては依然「人事上の秘密」を盾に開示しようとする。けれど、せめて点をささげたい。
哲学／現象学

竹田エロス論と「他者」「外部」

数によって客観化されている情報を、しかも本人が開示してほしいと要求しているのに、どうして開示できないのか。その根拠の説明要求に対し、最高裁はいま完全に行き詰つてある。「人事上の秘密」の一角が崩れるのは、

■プロフィール（かみさか・なおき）裁判官任官拒否国賠訴訟原告

もや時間の問題というべきである。

倫理 問題について、「他者」とか「外」部」といった用語を目にすることがある。私の知る範囲で「他者」をいい出したのは、おそらくE・レヴィナスである。彼は元々は現象学から出発したが、やがて現象学からはずれゆき、その現象学から外れたところで、「他者」ということをいい出すことになる。私は今回、これについて改めて現象学の立場からの再検討を試みようと思う。以下、レヴィナスのいう「他者」を「他者」表記して区別することとする。

レヴィナスが「他者」を持ち出したモチーフは、了解（ハイデガー）を人間（現存在）の本質だとすると人間は本質的に自己中心的な存在だということになる、と考えた点にある。私の考えではその背景には、人間は「他者」に出会つて自我を解体され、自己中心性を越えてるべきではないかという要請がある。だが、そういう要請の下に「他者」の存在を想定することそのものが、実は既に一種の倫理的態度なのである。「他者」を倫理の根拠に置けば循環論となつてしまふ。

また私は最近まで、レヴィナスの「他者」概念を一種の「転回」だと思つていた。だが

現象学的には、他者は「私」の意識（主觀）に現れた「他者」という形でしか存在できない。この点では、自分の目の前に立ちそのままを疑えないような「他者」も、単なる想定上の「架空の他者」も同じである（ただ「現実の他者」か「架空の他者」かと、いう妥当の仕方において異なる）。「私」がその存在を知らない他者について考えようすれば、その「他者」は「よく知らない他者」として「私」の意識に現れてることになる。主觀に現れない「他者」の想定とは、そもそも語義矛盾なものだ。

「客觀」の存在は証明不可能だが、う確信」は存在する。これはどんな懷疑論者にも当てはまる。□ではなんといつても自分に向つて自動車が突つ込んできたら、やはり避けようとするだろう。この自動車は実は存在しないんだといって車に轢かれる人はいない。ただ、この場合にも現象学では「自動車の存在」を「真理」だとは考へない。自動車が本物であれ立体映像であれ、自動車を避けた人がその時に自動車の存在を確信していたことは事実である。これを「存在妥當」と呼ぶ。しかし「存在妥當」は「真理」ではなく、常に「実は立体映像だった」というような編み変えの可能性を持つものとして考えなければならない。

また私は最近まで、レヴィナスの「他者」概念を書くに当たつて確かめ直してみると、レヴィナスが最初から現象学を充分に理解していかつたことが見て取れる。紙幅の都合でそれを逐一挙げることはできないが、たとえば第二次大戦直後の著作『存在から存在するものへ』でも彼の思想の前提には「客觀」存在が混入しており、この不徹底さが混乱を呼んでいる。

このことを、現象学の説明を兼ねて別のい

に人間の本質（の一つ）が「了解（自己）了解」だとしても、それゆえに人間が自己中心性を越えられないと考えるのは早計に過ぎる。人間が「他者」との関係において自己中心性を越えようとする、その条件は何か。一つは「他者」が「必ずしも自分の思い通りにならない存在」として現れることがある。それに加えて、その「他者」との関係をよいものにしたり、よい関係を維持しようと希望する場合である。そして後者の条件を支えるのは、人間がエロスを求めるという事実による。

竹田青嗣のいう「エロス」は、一つには人間が世界を分節する底板の原理という意味がある。これは「欲望」といえてもよいだろ。そして竹田が「エロス」という概念を置いたことの最大の利点は、そこから「人間関係から得られるエロス」という概念を提出し、他者との関わり方について考えるための通路を開いたという点にあると考へられる。

「人間関係から得られるエロス」とは、「他者」から承認されることで得られるエロスであり、人間はそれがあつて初めて安定（固定）ではない」した自我が得られる。なぜかといふと、人間は自我に限らず、自分が認めるものを「他者」からも認められることで、その確信を強化できるからだ（間主觀性）。したがつて、他者から承認されることで得られるエロスは、自我確信の安定化のエロスだと考へてもよいだろう。

神名龍子

現象学的には、他者は「私」の意識（主觀）に現れた「他者」という形でしか存在できない。この点では、自分の目の前に立ちそのままを疑えないような「他者」も、単なる想定上の「架空の他者」も同じである（ただ「現実の他者」か「架空の他者」かと、いう妥当の仕方において異なる）。「私」がその存在を知らない他者について考えようすれば、その「他者」は「よく知らない他者」として「私」の意識に現れてることになる。主觀に現れない「他者」の想定とは、そもそも語義矛盾のものだ。

■私達は

現象学的には、他者は「私」の意識（主觀）に現れた「他者」という形でしか存在できない。この点では、自分の目の前に立ちそのままを疑えないような「他者」も、単なる想定上の「架空の他者」も同じである（ただ「現実の他者」か「架空の他者」かと、いう妥当の仕方において異なる）。「私」がその存在を知らない他者について考えようすれば、その「他者」は「よく知らない他者」として「私」の意識に現れてることになる。主觀に現れない「他者」の想定とは、そもそも語義矛盾のものだ。

現象学的には、他者は「私」の意識（主觀）に現れた「他者」という形でしか存在できない。この点では、自分の目の前に立ちそのままを疑えないような「他者」も、単なる想定上の「架空の他者」も同じである（ただ「現実の他者」か「架空の他者」かと、いう妥当の仕方において異なる）。「私」がその存在を知らない他者について考えようすれば、その「他者」は「よく知らない他者」として「私」の意識に現れてることになる。主觀に現れない「他者」の想定とは、そもそも語義矛盾のものだ。

任を隠蔽してきた欺瞞を、自らのヒロイックな報復戦争協力の表明とともに肯定しようとしているように思われます。

小泉首相のいう報復戦争支援とは、戦争贊美のことにはならないということを、私はいまいちど認識する必要があると思います。

■福本卓道

「報復戦争反対」のアピールに賛同します。

一部のイスラム原主義者のアメリカ帝國主義に対する攻撃に対し、「報復戦争」「日本の協力」に対し何かの表現を考えていた矢先、「カルチャーレヴュー」のアピールを受け賛同の意を表します。

汚いのは民主主義を看板に裁判・証拠という事実抜きに予断と偏見によって軍事報復などというのは全く民主主義を踏みにじるものである。そしてアジア・中東諸国には「援助金」と軍事力なる暴力でその国の意志を変えさせる。

日本においては、「憲法の枠の範囲で」という中で憲法を踏みにじる。

我々のたつ立場は、小泉首相は「所信表明」で憲法九条の後段を一部引用し、アメリカ支援の根拠としているが、その前に記載されていることこそが、我ら日本の立つ原点ではないのでしょうか。

卓道

魂の経済学序説

哲学/思想

魂の経済学序説

1 魂の経済学の四相

ジョルジュ・バタイユではないけれど、私の目下の仕事は経済学の勉強である。私には一個の見方があり、それによれば云々と、ここで一気に畳みかけたいところだが、バタイユの向こうをはって、供給や教会の建立や財宝の贈与が麦の売買に劣らぬ関心事であるとか、富の消費＝蕩尽が生産に比して第一目標となる「普遍経済」の原理を人々にわからせようと努めてみたが徒労に終ったとか

大見得を切つてみせるだけの考察の濃度も見通しの強度も欠けていたのだから仕方がない。

第四、魂の四学の掉尾にして究極の魂学。あるいは普遍情報的もしくは汎システム的様相のもとの魂の経済学。

2 魂の四学－あるいは実在の四相

私が構想、いや夢想している魂の四学を乱暴に要約してしまうと、およそ次のようになる。物質から精神へ（神経哲学）、そして精神から生命へ（靈性）、さらに精神から意識へ（情報神学）、さらには物質へ（言語数論・システム）が第一目標となるものだ。

さらに言葉を連ねるならば、それは普遍経済と普遍数学と普遍言語の三組が絡まつた錯綜体の高次に位置する実在の学である。しかし、ここではこれ以上の妄言は差し控えて、当面の作業仮説として魂の経済学の四つの相を素描しておくことにしよう。

第一、自然経済。あるいは普遍経済的様相のもとの魂の経済学。——経済発展は自然発展の別の形態であり、自然が用いているのと同じ普遍的法則を用いている（ジエイン・ジエイコブズ）。いまや、大地、貨幣、情報について靈性（エリティ）の根本的な振動＝律動である。——ルディ・ラッカーは言う。數・空間の分割はリアリティの根本的な特徴であって、私たちの脳は存在の二つの様式を扱うことができるようにならんとしたのである。そこで、この世界のすべてのものと関係がないように、魂はその本性においては、この世界のすべてのものと関係がないのであると言っている。それゆえに自然学の師たちは、魂が体の内にあるというよりも、むしろ体が魂の内にあるのだと言っている。ワイン

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

★本紙のバックナンバー「目次」紹介★

■創刊号の内容(99/12/01発行)■

◆社会改造プログラムとしての「投げ銭」／松本 功◆余りの方から割り算されて——『性現象論』を読む／加藤正太郎◆ドラゴンアッシュは「親離れ」の90年代型モデルである／田中俊英◆ヴァジラヤーナの封印について／森ひろし◆季刊『La Vue』への誘惑／山本繁樹

■2号の内容(00/06/01発行)■

◆ジェンダー・立ちすくむ経験／落合祥堯◆フットボールの進歩についての試論／山口秀也◆商品の呪術的性格の脱魔術化に向けて／平野 真◆ヘーゲル『精神現象学』は〈超・娯楽読み物〉である／佐野正晴

■3号の内容(00/09/01発行)■

◆ダンスに感應する関西の日々～「観る身体」になるために～／小暮宣雄◆セクシュアリティにおける「語り口」の問題あるいは「私の問題をわからせるには、どうしたらしいのでしょうか？」／栗田隆子◆ビデオ「罪なく罰せられて一婚外子の声」を制作して／江上諭子◆殺 佛／富 哲世◆音触りのすすめ／小原まさる◆風土と身体に刻まれた歴史感覚——琉球弧の思想的〈現在〉／大橋愛由等

■4号掲載内容(00/12/01発行)■

◆インタビュー「生命学者の森岡正博さんに聞いてみよう。——大切な「本人の意思」原則—臓器移植法「改正」に異議あり!」／森岡正博◆書物受難の時代／福嶋 聰◆シドニーは燃えているか——あるいは日本〈的〉サッカーの行方／山口秀也◆横に立つ——演劇を遠く離れて／桃田のん◆千早振る『うつ病者の手記』三年目／時枝 武◆言葉という原罪——「癪」の表記をめぐって／森ひろし

■5号掲載内容(01/03/01発行)■

◆詩をめぐることばの現在／高橋秀明◆紫の上のいのり／ゆふまどひあかね◆魂脳論序説／中塚則男◆複製芸術論のアクチュアリティー／平野真◆日本一あぶない音楽——河内音頭断片／鶴飼雅則◆私はその存在を肯定したい——立岩真也著『私の所有論』『弱くある自由へ』を読む／加藤正太郎

■6号掲載内容(01/06/01発行)■

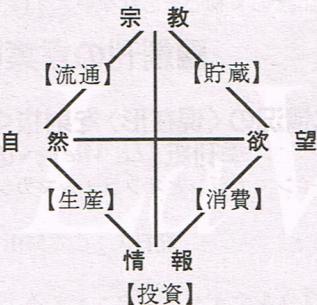
◆鳳凰堂のペルシャ美と京都復興——「京都デザインリーグ」の試み／渡辺豊和◆わたしは、「懸命に」ゲイに「ならなければならない」／大北全俊◆「態度の変更」として——柄谷行人著『倫理21』を読む／村田 豪◆「これが好きだ」ということが好きだ／小杉なんぎ◆わたしたちは忘却を達成した——大東亜戦争と許容された戦後／野原 燐

■7号掲載内容(01/09/01発行)■

◆映画学事始め——映画研究者失格の記／上倉庸敬◆緑の国のインディアン／小原まさる◆新宮市住宅地図調査日誌——新宮で読む中上健次／村田 豪◆本の取り寄せ奮闘記／山田利行◆倫理って何なんだ!——倫理の共有は可能か?／ひります

魂の四学の配置図は、最低でも四次元の世界に属する事柄を一次元に圧縮したもので、どいい魂の経済学が対象とする領域は同一平面に書き込めない。だから、これもまた無理を承知の補助図を添付しておく。

【図III】魂の経済学のマトリクス(1)



3 魂の経済学の三項図式

前回上ばかり並べ立てて、肝心の本論になかなかたどり着けない。それというのも、魂の経済学をめぐる現時点での私の探究がおよそそのあたりから混沌の度を深めてしまうからだ。しかしここで中断するのも藝がない。以下、西欧中世存在論の三項図式、すなはち「被限定項—限定項—限定態」(註1)を参考に、魂の経済学の一側面を素描しておこう。

第一、探求されるもの。魂の経済学の対象、

前回上ばかり並べ立てて、肝心の本論になかなかたどり着けない。それというのも、魂の経済学をめぐる現時点での私の探究がおよそそのあたりから混沌の度を深めてしまうからだ。しかしここで中断するのも艺がない。

以下、西欧中世存在論の三項図式、すなはち

「被限定項—限定項—限定態」(註1)を参考に、魂の経済学の一側面を素描しておこう。

第一、探求されるもの。魂の経済学の対象、

前回上ばかり並べ立てて、肝心の本論になかなかたどり着けない。それというのも、魂の経済学をめぐる現時点での私の探究がおよそそのあたりから混沌の度を深めてしまうからだ。しかしここで中断するのも艺がない。

以下、西欧中世存在論の三項図式、すなはち

「被限定項—限定項—限定態」(註1)を参考に、魂の絏済学の一側面を素描しておこう。

第一、探求されるもの。魂の絏済学の対象、

前回上ばかり並べ立てて、肝心の本論になかなかたどり着けない。それというのも、魂の絏済学をめぐる現時点での私の探究がおよそそのあたりから混沌の度を深めてしまうからだ。しかしここで中断するのも艺がない。

以下、西欧中世存在論の三項図式、すなはち

「被限定項—限定項—限定態」(註1)を参考に、魂の絏済学の一側面を素描しておこう。

第一、探求されるもの。魂の絏済学の対象、

前回上ばかり並べ立てて、肝心の本論になかなかたどり着けない。それというのも、魂の絏済学をめぐる現時点での私の探究がおよそそのあたりから混沌の度を深めてしまうからだ。しかしここで中断するのも艺がない。

以下、

